

《22. 2. 28 第166号》



健民運動 かわら版

発行：石川県健民運動推進本部
金沢市鞍月1丁目1番地
県民文化局県民交流課内
TEL 076-225-1365

ホームページ

健民運動

検索

(E-mail) kenmin-i@pref.ishikawa.lg.jp



<フキノトウ>

～毎月7日は「健康の日」です。歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう。～

鼓動

「犀川河川愛護会の活動」一隅を照らす

犀川河川愛護会 事務局長 中村 稔

環境・文化活動の推進

◇「健民桜名所づくり運動」紹介その3

青少年健全育成活動の推進

- ◇青少年ボランティア賞表彰式開催
- ◇「みんなのありがとう」の作品紹介

健民運動活動紹介・奨励コーナー

- ◇「くらしの本棚」発行に向けて
- ◇「桜新聞No.7」発行
- ◇NPO法人いしかわ自然体験支援隊の活動報告

健民運動カレンダー

県民ボランティアセンターだより

薫風

「知っていますか？「国民読書年」のこと

ーじゃあ、読もう。図書館で！ー

石川県公共図書館協議会 事務局長 竹中 匠



< 2.4(木) 青少年ボランティア賞
表彰式記念写真 >

鼓 動

「犀川河川愛護会の活動」一隅を照らす

犀川河川愛護会 事務局長 中村 稔

平成13年6月に日頃この河川を歩いたり走ったりしている人たちで自然発生的にグループ結成、美化活動を始めたのが出発点でした。

1) その当時を振り返ると

コンビニ店舗が次々と出店してきたこと、花火大会が下流で開催されるようになってきたことをキッカケに河畔を利用する人が増え、電気製品の有料処分問題等もあって次第に汚染化、それが結成に至った理由でした。

2) 結成後の主な活動

約9年間の活動で沢山の成果がありますが、代表的な3件を挙げますと

①不法放置自転車の撤去

大豆田、若宮大橋の兩岸に30台余の野ざらし車があり撤去した。

②右岸犀川大橋(片町側)の下流100m地点の段差2mをスロープ化してもらった。

③右岸若宮大橋下流の窪地や雑草地を整備して公園化、憩いとふれあいの空間にする。

3) 以上のような活動を実践するため、会員が上流は雪見橋、下流は河口の普正寺橋までの兩岸合計20kmを分担巡視し、毎月県央土木へ報告書を提出しています。会員それぞれが「次の世代へも美しい犀川」を合い言葉に継続実践していることが評価されて成果が後押しされました。

4) 当会の登録会員は、只今(平成21年末)136名に達し、また、昨年6月からは会員協力による空き缶回収をして障害者の施設にプレゼントするなど社会福祉にも貢献し当会の存在をグレードアップしています。

以前この会を結成後に機会があつて京都比叡山延暦寺を尋ねたことがあり、そこで今の私たちの活動にピッタリのヒントを戴くことができました。それは東塔、根本中堂を拝観した時のことでした。長い回廊を渡り歩いてもうすぐ出口というところで朱塗り板に墨痕鮮やかに、「一隅を照らす 此れ則ち国宝なり 真の国宝とは 物質的価値あるものをいうのではない 国家社会の平和 人類の幸福になることを能く行い能く言う心ある人を国宝と言ふ」社会の一隅でも存つて世のため 国のためになる 好いことや利益になることを利己的な心を忘れて尽くすことこそ慈悲の極みであり、この人こそ国の宝である。(以下省略) という偈を見て、以来大いに勇気づけられました。

犀川は2級河川で県が管理していますが県都のシンボルと例えられ市民の協力が欠かせません。特に、兩岸に住む我々こそが損得抜きに手間暇かけて次の世代に伝えていくべき大自然空間財産です。犀川を守り続けられる元気に感謝と喜びを覚える昨今です。

環境・文化活動の推進

◇「健民桜名所づくり運動」紹介その3

当健民運動推進本部では、地域における桜の新名所づくりと桜の美しい石川県づくりを県民総ぐるみで推進しています。植樹の様子を紹介します。

○笹川 みち子さん（志賀町）

久しぶりの晴天、夫と息子と一緒に植えました。家族の力で大きくしたい。満開の日を楽しく話し合っ
て共同作業をしました。陽ざしも桜も暖かく気持ちを包んでくれました。楽しい時間でしたよ。

11月25日に植えました。下校中の子どもたちが「何してるん？」と聞きましたので、「桜の木と競争して大きくなろうね。」と話しました。

5本植樹。



○羽咋市立邑知中学校（羽咋市）

2本の兼六園菊桜は卒業記念の桜が枯れた後に植えさせていただきました。

また、6本の花笠は、運動場の周りに植えさせていただきました。大きく、立派な木に育っていくよう願っています。



○県立錦城学園（加賀市）

ボランティアの方が、オーガスクリューで穴を開けてくださったり、保護者会の積極的な協力もあり、また、天候にも恵まれ、思ったより短期間で作業を終えることができよかった。将来が楽しみです。26名で52本植樹。



青少年健全育成活動の推進

◇青少年ボランティア賞表彰式開催

2月4日(木)、県庁舎で表彰式が行われ、谷本正憲健民運動本部長・県知事から5団体と3個人に賞状と盾を贈られました。知事は受賞者に、「ボランティアの輪が広がれば、石川県民同士が助け合い、もっともっと住みやすい地になります。今後も地道な活動を続けてほしい。」と激励しました。

表彰式後、受賞者たちは、それぞれ自己紹介やボランティアをとおして学んだことなどについて知事との懇談を行いました。

以下、懇談の様子です。



<知事から激励を受ける受賞者>



<懇談中の知事と選考委員>

1 七尾市立田鶴浜小学校児童会【団体賞】



もともと田鶴浜町にボランティア活動を取り組む素地があったことと、児童会が長年ボランティアに取り組んできた結果、受賞に結びついたと思います。

また、日曜日や祝日の活動日が、自分の運動クラブの試合とぶつかることもあり、自分にとってどちらが価値ある活動だろうかと考えるいい機会となりました。

2 県立穴水高等学校ボランティア同好会【団体賞】

能登半島地震後の仮設住宅への引っ越し作業の手伝いもさせていただきました。また、町活性化イベントの運営サポーターとして、イベント用のキャンドル作りなど地域の人との交流も大切に活動しています。



3 県立高浜高等学校野球部【団体賞】



ゴミを拾うことはチャンス拾い、僕たちも気持ちよくなり、それを見た人たちも気分よくなります。僕たちが行うことで地域の皆様方から温かい支援が戻ってきて、お互いの気持ちがよくなります。

難しいことは、たった一つ、目の前のゴミを拾う勇気だと思います。

4 金沢学院大学サポートスタッフクラブ【団体賞】

子どもが大好きという仲間が集まって、鹿島少年自然の家の活動をサポートしています。年々、私たちスタッフとの活動を楽しみに参加してくれる子どもが増えていると聞いています。これからも、子どもたちのために何ができるかを一番に考えたいです。



5 Think about Yourself (金沢大学)【団体賞】



医学部専攻の学生たちで高校に出向いての授業を継続しており、妊娠のしくみや中絶などについてわかりやすくかみ砕いて伝えることの難しさを学びました。そして、生徒の授業後の感想で「分かりやすかった」「大切なことだと思った」などと好印象の回答をみるとやりがいを感じます。

6 新井友里那 (小松短期大学専攻科1年)【個人賞】

活動に取り組む中で福祉施設のケアを実際に体験させていただいたり、多くの方々と交流できたことがよい思い出となりました。また、ボランティアは、「自分の成長」に繋がり、「自分の心に潤いを与えてくれるもの」であると、感じる事ができ、意欲的に取り組むことができました。



7 寺口 学(金沢学院大学3年)【個人賞】



かほく市の観光ガイドという活動は、観光客の皆さんに楽しんでいただけるようにコース計画を考えて作る必要があります。男女、年齢、興味などに合うように計画を考えることは大変でした。しかし、考えただけ、皆さんが楽しんでいらっしゃる様子を見るととてもうれしくなります。

8 秋田紗也加(金沢大学4年)【個人賞】

中学生の時から発達障害について学びたいと思い、大学に進学し、4年間、障害のある子どもと係わりをもち、自分の「あたりまえ」を子どもに押しつけるのではなく、「待つ」姿勢を大切にすることが子どもの意図することをより理解できることを学びました。子どもの理解が進むと、その子と私との関係をうまく築くことができ、楽しさを感じました。



<活動内容紹介冊子>

◇「みんなのありがとう」の作品紹介

青少年の健全な育成を願う活動の一環として、思いやりや、やさしい気持ちを育むことを目的に「ありがとう」を募集しました。入選作22点の中から9点を紹介します。

また、入選作は当本部ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。



ゆきの日、おかあさんの車がうごかなくてこまっていました。おかあさんはぼくに「おうちに入っていないさい」といったけど、おかあさんがしんばいなのでいえからスコップをもってたすけにいきました。そのときおかあさんがびっくりしたかおで「ありがとう」といってくれました。たすけにきてよかったとおもいました。車はぶじうごきました。

七尾市立小丸山小学校 1年 田中 雅大

ぼくがありがとうと言いたいのは、お父さんとお母さんとありちゃんです。てつぼうはっぴょうかいのしゅもくわざができなくて、公園へつれていってもらいました。ありちゃんに「もっといきおいつけたほうがいいよ。」とアドバイスをもらい、お父さんにはてつだってもらい、お母さんにもてつだってもらいました。ぼくは、ありがとうといえなかったので、アドバイスと手伝いをしてくれてありがとうと言いたいです。

加賀市立河南小学校 3年 塚本 翔太

プリントをくばられたときに言う「ありがとう」。
プリントを一まい一まいもらったときに言う「ありがとう」。プリントを前のせきの人からもらったら「ありがとう」と言って、うしろのせきの人にわたして「どうぞ」と言うのと「ありがとう」とはねかえるのがいいきもちになる。

七尾市立小丸山小学校 3年 竹田 賢太郎

3年生のころに「お父さんへありがとう」という手紙を書いた。そのころは「お父さんのたんじょう日になったらあげよう」と思っていた。でも、お父さんのたんじょう日になると、はずかしくてなかなかわたせない。心の中で「わたそう、ぜったいわたそう」と思っているのに。

5年生になった今もわたせていない。いざとなると手紙をわたせない自分がくやしい。ありがとうを伝えていない。お父さんに申しわけない。こんなぼくでもいつかはありがとうを伝えたい。

津幡町立井上小学校 5年 長尾 勇成

あの時、友達になってくれて「本当に、ありがとう」。
あの時、あなたが声をかけてくれたから。
あの時、あなたがさそってくれたから、友達になれたんだ。
だから、友達ができた時は、本当にうれしかった。
もしも、あの時さそってくれなかったら、今よりも仲良くなかったかもしれない。
もしかしたら、友達にもなれなかったかもしれない。
それに、いっしょに遊んだりしてくれるから、私は楽しい毎日になってるんだ
だから私は友達に、「ありがとう。」の言葉をおくります。
友達になってくれて本当に、「ありがとう」。

野々市町立野々市小学校 5年 中田 侑里

家に帰って来たらかならず「おかえり」と言ってくれる家族にありがとう！と
思いました。いつも、ごはんをつくってくれるお母さん。家族のために、いっし
ょうけんめい働いてくれるお父さん。しゃべり相手になってくれる弟。せんとく
などをしてくれるおばあちゃん。ありがとう！！

宝達志水町立押水中学校 1年 野崎 咲樹

いつもありがとう。服を買ってくれたり、ごはんを作ってくれたり、どこかへ
つれて行ってきてくれて本当にありがとう。私はそれがあたりまえだと思っていたけ
ど、やっぱりそれは違うなあと思いました。家族がいるということは、とっても
幸せなことだと思いました。私は「ありがとう」とあまり言わないのでこれから
は感謝の気持ちをこめて「ありがとう」と言うことにします。

白山市立松任中学校 1年 吉本 美紗

私が学校などに行く時、散歩をしている人や、畑仕事をやっている人にあいさ
つをします。そしたら、相手の方からもかならずかえってきます。

その中で、「気をつけて行ってきなよ。」や「えらかったね。」と言ってくれる人
がいます。その一言がすごく私の心に残ります。

そんな言葉を言ってくれる人は、きっと心のあたたかい方だと思います。そん
な人に、ありがとうを伝えたいと思います。

愛知県弥富市立弥富中学校 1年 八木 寿奈

ありがとうって何？それはねえ、その一言でみんなに幸せをプレゼントするん
だよ。ありがとうって何？それはねえ、毎日この一言をどこかで必ず聞いている
んだよ。言っている人達って誰？それはねえ、地球上の全ての物が「ありがとう。」
を言っているんだよ。あたりまえのようにそれを聞いている自分、そんな素晴ら
しい世界にありがとう。

七尾市立中島中学校 2年 平林 英大

健民運動紹介・奨励コーナー

◇『くらしの本棚』発行に向けて

1月15日(金)に、今年度4月に高松第二・四保育園が合併して新しく開園した「かほく市立学園台保育園」を取材しました。

ガラス張りのドアと木の温もりあふれる開放的な建物の中には、子どもが見たい、読みたいという思いが引き出されるような「絵本コーナー」が各保育室に配置されています。

保護者が、送迎時に保育室のガラス戸をとおして絵本活動を見かけ、親子で絵本を選び、絵本を借りて帰られるそうです。



能口園長先生は、「各保育室に絵本コーナーがあり、1日に2～3回、必ず絵本タイムを設けています。そして、年齢に応じた読み方も工夫しています。例えば、未満児では、繰り返しの言葉が出てくる絵本を選んだり、子どもを膝の上に乗せて絵本を読むことを心がけています。」

また、「子どもたちの『読んで、読んで』、『もう一回』の言葉を大切にしています。」とお話をされました。



上:「えがおぶんこ」で絵本選び
下:借りる絵本についてアドバイスを受ける子どもたち



<各保育室で子どもたちに絵本の読み聞かせをする保育士>



<保育室の中にある絵本コーナー>



<絵本を選び、読む、子どもたち>



<虫メガネを用いて絵本を調べる子どもたち>

◇『桜新聞No. 7』発行について

当本部では、平成6年から実施している「健民桜名所づくり運動」に関わる『桜新聞No. 7』（写真右）を発行し、今年度植樹された方や過去に複数回の植樹をされた方などに配付しました。

『桜新聞No. 7』の内容は、健民運動推進本部のホームページに掲載していますのでご覧ください。

当本部では、植樹された方で、植樹地、桜の木の状況や管理方法、あるいは、桜の名所になってお花見をされている様子などについての写真や記事をお待ちしております。

健民運動推進本部の活動

桜新聞No. 7

平成6年(1994年)から実施している「健民桜名所づくり運動」に関わる『桜新聞No. 7』(写真右)を発行し、今年度植樹された方や過去に複数回の植樹をされた方などに配付しました。

『桜新聞No. 7』の内容は、健民運動推進本部のホームページに掲載していますのでご覧ください。

当本部では、植樹された方で、植樹地、桜の木の状況や管理方法、あるいは、桜の名所になってお花見をされている様子などについての写真や記事をお待ちしております。

植樹地	樹種	樹高	樹齢
金沢市	桜	10.0	10
石川県	桜	10.0	10
福井県	桜	10.0	10
滋賀県	桜	10.0	10
岐阜県	桜	10.0	10
愛知県	桜	10.0	10
静岡県	桜	10.0	10
千葉県	桜	10.0	10
東京都	桜	10.0	10
合計		100.0	100

桜新聞No. 7の発行について

『桜新聞No. 7』の内容は、健民運動推進本部のホームページに掲載していますのでご覧ください。

当本部では、植樹された方で、植樹地、桜の木の状況や管理方法、あるいは、桜の名所になってお花見をされている様子などについての写真や記事をお待ちしております。

◇NPO法人いしかわ自然体験支援隊の活動報告

当本部の構成団体、NPO法人いしかわ自然体験支援隊が、いしかわ森林環境税を活用した「こども森の恵み推進事業」の中で、子どもたちの自然体験活動への取り組みを実施しましたので紹介します。

<取り組み事例>「街っ子森の学校夢の森プロジェクト」

普段自然に触れる機会のない金沢市立弥生小学校5年生の児童たち(63名)が3回にわたり、「夕日寺健民自然園」近くの荒廃した里山での自然体験をとおして自然の大切さを知り、里山の活用を考えました。

1回目(H21.10.7)は、森と里山についての解説をし、2回目(H21.10.21)は、実際の自然体験をしました。3回目(H21.11.11)は、これまでの体験活動のまとめと夢の森の発表会を弥生小学校で行いました。

この取り組みをとおして、同支援隊理事長の森江 章さんは、「子どもたちは、大人が思っている以上に想像力が豊富で、楽しいと思うことについて自主的、主体的である。また、環境問題が盛んに討議されている昨今、自然を感じ、それを知り、そのために活動をする。このことを大切にしてもらいたい。」と話されました。



<原木にシイタケ菌を植菌>



<ロープ橋渡り>



<「夢の森」体験発表会>

3～4月の健民運動カレンダー

(H22. 2. 25現在)

3 / 5 (金) 13:30～

健康体力づくり講習会
会場：いしかわスポーツ
主催：健民運動推進本部



3 / 7 (日) 9:00～

石川県室内ゲートボール能登大会・加賀大会 <日の出とサンダーバードと白山>
会場：健民スポレクプラザゲートボール場
鳥屋室内ゲートボール場
田鶴浜室内ゲートボール場
主催：石川県ゲートボール協議・北陸放送

3 / 28 (日) 9:00～

131回卯辰山山麓寺院郡「心の道」を歩きましょう
会場：元町児童公園
主催：石川県歩こう会連絡協議会

4 / 24 (土) ～ 25 (日) 9:00～

第25回北信越ゲートボール選手権大会
会場：こまつドーム
主催：石川県ゲートボール協議

県民ボランティアセンターだより



<使用済み切手>

石川中央保健福祉センター、交流政策課、厚生政策課、管財課、河川課、農業基盤課
県民交流課、経営対策課、金沢中央郵便局、砂防課、観光連盟、危機対策課、匿名
金沢県税事務所 計 14 件

ご協力ありがとうございました。

ご提供いただきました使用済み切手、書き損じはがきにつきましては、さまざまな支援を必要としている人々に役立てていただいております。ぜひお寄せください。

* ひとつ *

毎月、当センターにはたくさんの使用済み切手が寄せられています。
みなさんのご厚意に心から感謝いたします。
こんな身近なボランティアを、一緒に始めてみませんか？

(財) 石川県県民ボランティアセンター

〒920-0962

金沢市広坂2丁目1番1号 石川県広坂庁舎 4階

tel: 076-223-9558 fax: 076-223-9559

e-mail: e130500a@pref.ishikawa.lg.jp

知っていますか？「国民読書年」のこと — じゃあ、読もう。図書館で！—

石川県公共図書館協議会 事務局長 竹中 匠

最近よく、「国民読書年」の文字を目にしませんか？
今年、平成22年(2010年)が、「国民読書年」だをご存知ですか？

ここ十数年来、日本では、言語(国語)力(読む・書く・聞く・話す力)とそれを基礎とする学力一般の低下が問われ、その大きな要因として読書離れの進行による読書力の衰退が言われてきました。



じゃあ、読もう。

こうした現状を踏まえ、平成20年6月6日の国会において「国民読書年に関する決議」が採択され、「文字・活字文化振興法」の制定・施行5周年にあたる2010年を「国民読書年」とすることが決まりました。



ところで、本協議会でも、全国的な「子ども読書の日」(4月23日)や「こどもの読書週間」(4月23日から5月12日)の取組みに加え、昨年から、県内の公共図書館が一致協力して県レベルで独自に「石川県子ども読書月間」(4月23日から5月22日)を設けて、「よむ子は育つ」をキャッチフレーズに、子どもの読書活動推進に向けた活動を行いました。近くの図書館などで、この月間のポスターをご覧になった方もおいでることでしょう。

2010年の「国民読書年」が一過性のものではなく、毎日が「国民・県民読書日」となるよう、県内の図書館が一体となって知恵をしぼり、読書の推進と定着を目指して日々取り組んでいきたいと思っています。

これまで図書館に足を向けたことがない方、ぜひ一度近くの図書館をご利用いただき、読書の楽しさを満喫してください。

「国民読書年」のキャッチフレーズ「じゃあ、読もう。」を合言葉に！

毎月7日は「健康の日」です。
～歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう。～



毎月第3日曜日は「家庭の日」です
～ 家族とのふれあいを大切にしましょう ～